

丸山穂高衆議院議員の言動に対する嚴重抗議と
一刻も早い北方領土問題の平和的解決を求める決議

令和元年、第1回目となる北方四島交流訪問（ビザなし訪問）に参加した丸山穂高衆議院議員が、国後島において元島民である訪問団の団長に対し「戦争でこの島を取り返すのは賛成か」等という質問を執拗に繰り返した。それは旧ソ連軍の侵攻によって強制的に島を追われ想像を絶する過酷な経験をしてきた元島民の方々に対して、あまりに思慮のない言動である。また、日本国民と四島に暮らすロシア人住民との交流をすすめ、両国の友好と信頼の醸成をはかり、北方領土問題の解決にむけた環境づくりを進める四島交流の意義を否定するものである。

富山県は北方領土からの引揚者が北海道に次いで2番目に多く、特に新川地域に集中していることから、魚津市にとっても北方領土返還は古くからの願いである。丸山衆議院議員の言動は元島民をはじめ多くの魚津市民そして全国の返還運動に参加してきた方々の思いを踏みにじる行為であり、強い憤りを覚える。

衆議院の沖縄及び北方問題に関する特別委員会委員でもある国会議員が、過去の戦争を教訓として恒久平和を誓った平和主義に反する発言をしたことは、断じて許されない。これらの言動は、北方領土問題の解決と平和条約締結のために大切な日ロ両国の信頼関係を損なうものである。よって丸山衆議院議員においては国会議員としての職を自ら辞すべきであり、魚津市議会として強く抗議する。

終戦時に北方四島に居住していた17,291人の元島民は今年3月には5,913人まで減少し、その平均年齢は84歳を超えた。今回の問題が今後の四島交流をはじめ自由訪問や北方墓参などの事業並びに日ロ関係に影響を及ぼすことのないよう、政府としても必要な対策をとるとともに、なによりも一刻も早い北方領土問題の平和的解決に向けて、外交交渉を強力に推し進めることを強く求める。

以上、決議する。

令和元年6月24日

魚津市議会